全日制コース ライブで配信

通学と変わらぬサポート実現

薬ゼミ

薬剤師国家試験予備校大手の薬学ゼミナールは、2021年度から薬剤師を目指す学生が自宅にいながら講義を受けられる「全日制ライブ配信コース」の提供を開始する。全日制通学コースと同様のカリキュラムで、テレビ会議システム「Zoom」を用いてライブ配信による講義を受けられる。初年度は開講キャンペーンとして通常よりも割安な特別価格で提供する。科目ごとに専任講師陣を揃え、コロナ禍で予備校での受講に不安を抱える学生の国試合格を後押しする。

薬ゼミは、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、今年度から薬剤師国試合格を目指す学生に対し、全日制通学コースの中で全国15教室での集合型による講義、Zoomを活用したライブ配信講義を併用して展開。自宅から教室への通学が困難な学生やコロナ禍で通学が不安な学生にも安心・安全な環境で勉強できる環境を整備してきた。

この1年間でライブ配信による講義を確立し、通学者と遜色ない成績を修めており、受講者での成績学生を対象としたアンケート調査では、集合型講義とほぼ変わらない満足度が得られるなど講義の精度を高めている。一方で、集合型講義とライブ配信によるハイブリッド型での展開では、それぞれの講義の質を高める上で限界も見られたため、全日制通学コースの一部として提供してきたライブ配信講義を独立し、新たなコースとして提供を開始する。

ライブ配信コースでは1年間、半年間の二つのコースを用意しており、通学コース同様のカリキュラムで、講義を日々リアルタイムで配信し、学生は自宅にいながら講義を受けることができる。質問や勉強相談もZoomを活用し、ライブ講義での臨場感や緊張感を維持しつつ、周囲の環境に左右されず、集中して学修できることが特徴。

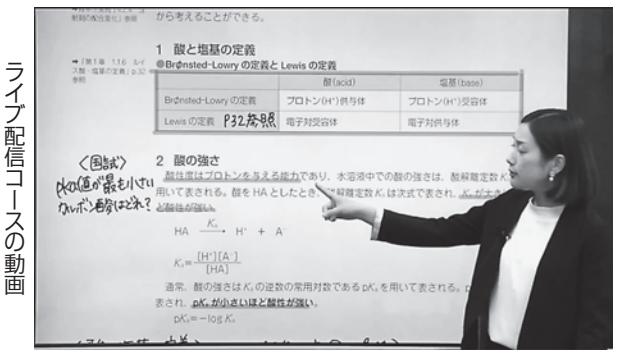
全日制ライブ配信コースでは各9科目に専任の講師を複数揃える。質問対応や一人ひとりに合った学修指導・勉強計画を一緒に考えるアドバイザー制度などきめ細かくサポートしていく体制を整えている。時間や場所を選ばず24時間コンテンツを受講できるオンライン教室のライセンスも付与され、講義がない日の自己学習にも活用できるようにした。

集合型講義に加え多様な教育ニーズに応えていく。新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢は厳しく、ワクチン接種が開始されたものの、収束までは時間がかかり、金銭的に厳しい受講生が例年以上に増えるなど経済環境も悪化。予備校での学修や薬剤師になることを諦める学生が出てくる懸念もある。

薬ゼミは「新しい学びの環境を創造する必要性がある」としており、ICTを活用した教育体制の強化を掲げる。来年度からはネット環境での学生サポートを目的とした全日制ライブ配信コース、オンラインコースを運営していくために「ICT教育室」を立ち上げる。スタジオが完備された渋谷教室にICT教育室の本部を構え、大阪教室内にオフィス、大阪近郊に撮影・配信ブースを備えたスタジオを設置。東日本・西日本の職員が参画することで学びの環境を創造する。

ICT教育室では、新たな教育コンテンツや講義手法の開発、高い学修意欲を支えるための受講者間でのコミュニティ形成のほか、中長期的には人工知能などを駆使し、学生一人ひとりの学修成果を高めるための個別化された教育手法を検討していく。

この1年間でライブ配信コースを国試合格に向けた選択肢の一つにしていくのが当面の目標だ。下野宗隆教務部長は、「人と人との触れ合いで生まれる教育の成果を主軸としながらも、ICT教育で対面型教育と同等の環境を構築していきたい。学生の成績の向上と学修環境に対する満足度を高めることで、国家試験合格を目指す絶対的な体制を作りたい」と語った。



ライブ配信コースの動画

薬剤師国試 大学間格差が深刻

2020年度も余すところあと1カ月を切りました。卒業、歓送迎会等通例の年度末行事が予定され、入試等の試験シーズンのピークが続きます。大学入試共通テスト（30年間続いた大学入試センター試験の後継として21年度スタート）は1月30、31日に終了し、2月25日には国公立大学前期日程の入学試験が始まりました。

今年は約1年続くコロナ禍の中、10都府県（2月28日に6府県解除）に緊急事態宣言が発せられている中での受験となり、通常とは異なる日常生活を余儀なくされる受験生をはじめ、関係者の方々のご苦労はいかばかりかと推察いたします。

さて第106回薬剤師国家試験は2月20、21日の2日間、全国9カ所の試験所で実施されました。昨年の国家試験は2月22、23日に実施され、全国で1万4311人が受験、9958人が合格し、晴れて薬剤師の仲間入りとなりました。

薬学教育6年制が06年4月に施行されて15年、薬剤師国家試験について様々な意見が寄せられています。多くの薬剤師を輩出する私立大学薬学部、私立薬科大学間での格差（国試合格率、出願者数、合格者数、入学後6年目で合格した者の比率等）が目立ってきているというものです。

例えば、昨年の国家試験、私大では新卒合格者の割合は84・1％でした。しかし、入学後6年間で卒業・合格した者、つまり14年度入学者は46・6％と報告されており、個々の大学を比較すると、その大学間格差はより大きなものとなっています。

もちろん、国家試験合格のみを指標として、大学の評価がなされるべきではありません。大学が国家試験受験予備校と化すことを避けるべきは当然です。しかし、国家試験合格率等が一つの指標とされている事実も否定できません。

厚労省が昨年に設置した「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」では、薬剤師の需給調査等を含め、幅広い検討がなされていると聞きます。その中での意見として「最近の薬学生の質が低下しているのではないか」との指摘もあり、また「薬学生の資質向上のためには入学者の質を上げることも必要」との意見もあるとか。

薬学志願者数は14年以降、ここ数年低下傾向にあります。入学定員1万1451人（20年）の私大における状況は表の通りです。前年に比べ、受験者数減少が想定される中、今年の動向はどうでしょうか。

ここにも大学間格差があります。入試合格率が1・0倍の大学も2校発生、多くの私大で定員割れ現象が発生しています。全59私大薬学部中、20の学部で充足率90％以下を記録しました。19年3校、20年4校と、6年制入学定員を削減する大学も出てきています。その一方で、07年以来となる私大薬学部（20年度岐阜医療科学大学、国際医療福祉大学福岡薬学部。21年度湘南医療大学）の新設も。

薬学教育、養成する薬剤師の問題は、将来の薬剤師職能、薬剤師需給問題に直結します。厚労省検討会議の成果を期待して待ちたいものです。

国試合格発表は今月24日です。多くの方に吉報が舞い込むように!!

藤井もとゆきの ひとり言

表　私立大学薬学部の受験状況

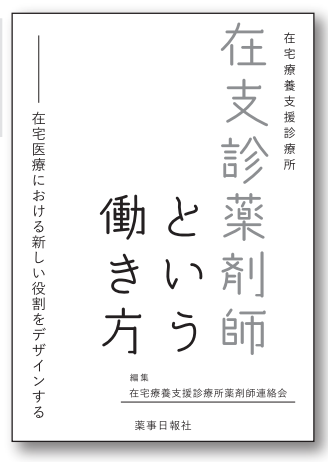
	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
2014年	121,876	115,936	29,454	12,224
2016年	105,573	99,609	30,842	11,420
2018年	96,008	89,848	30,387	10,949
2020年	82,668	76,646	32,170	10,629

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等の入学志願者動向」より

◎病院薬剤師でも、薬局薬剤師でもない
新たな薬剤師としての姿を知る！

『在宅療養支援診療所（在支診）』に所属する9人の薬剤師が、どのように業務をデザインして、どのような役割を担っているのか、その実際の取り組みと、今後何を目指すのかについて紹介。

また、在支診の院長が、医師として、そして経営者として薬剤師を雇用している目的や期待することなども紹介。



◎「患者さんと地域の状況と情報の統合」に取り組む在支診薬剤師の実態を知ることは
「モノ」から「ヒト」へのヒントにもなる！

［目次］
第1部　在宅医・経営者が求める薬剤師とは？
第2部　在支診薬剤師業務の最前線～そして未来に向け
第3部　座談会
在支診薬剤師という働き方
－“地域”を結び、在宅医療を支える挑戦－

在支診薬剤師という働き方
― 在宅医療における新しい役割をデザインする

［編集］在宅療養支援診療所薬剤師連絡会
A5判/142頁/定価2,200円（本体2,000円＋税10%）

詳細・購入はコチラ

薬事日報社　書籍のご注文は、オンラインショップ（https://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/